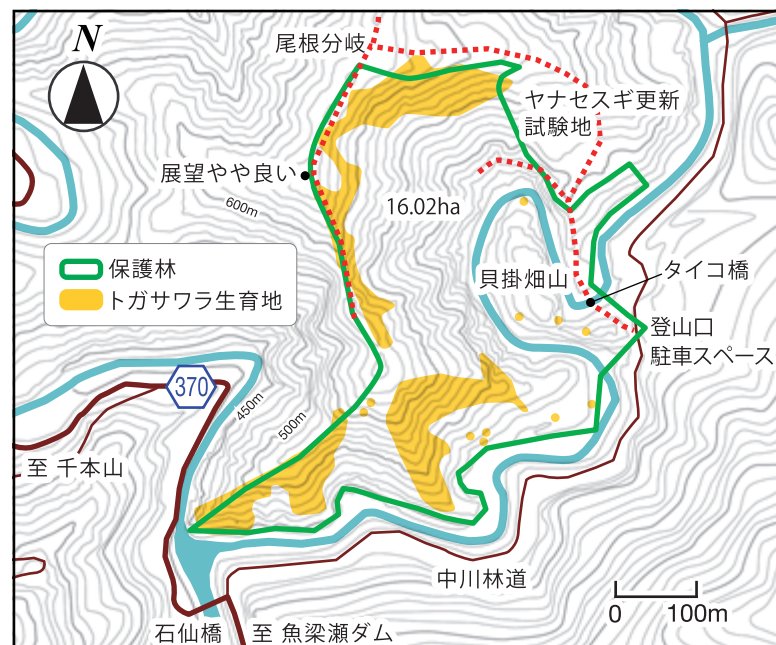


魚梁瀬トガサワラ林木遺伝資源保存林

当保護林は、道路から近いいためトガサワラが最も観察しやすい森です。平成22年に行った調査では、尾根付近（地図に示した黄色の箇所）でトガサワラが多く確認され、胸高直径3cm以上の木が288本確認されています。生育箇所は傾斜が40°程度の急傾斜地がほとんどで、土壌があまりない痩せ地を好んで生育しています。また、トガサワラ以外にもヤナセスギ、ヒノキ、モミ、ツガ、コウヤマキの、いわゆる「魚梁瀬の6木」がそろっている森です。

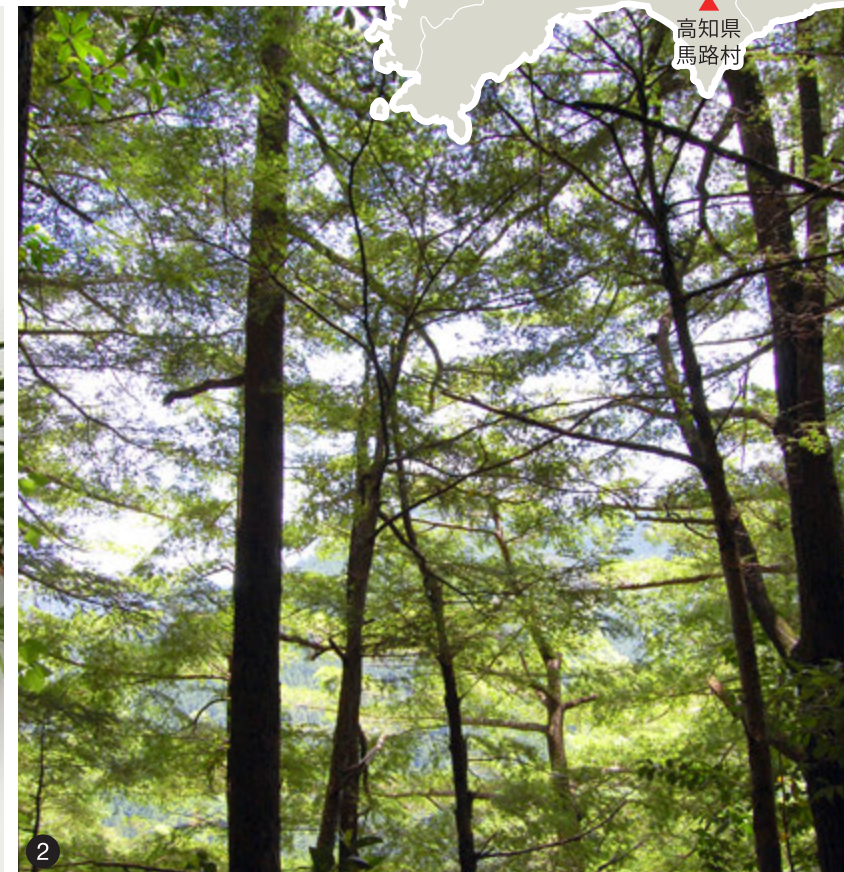


トガサワラの球果。球果は枝から下向きに付き、大きさは4～6cmで卵形をしているのが特徴です。また、年によって豊凶があります。



安田川山トガサワラ林木遺伝資源保存林

当保護林は、比較的若いトガサワラ林で、伐採後自然に発生したトガサワラを保存し、現在に至っています。小面積ながら四国では最もよくまとまったトガサワラ林です。



①トガサワラの葉。葉は線形で、あまり密生せず、先端中央部は丸く窪んでおり、ツガなどに似ています。②林内の様子。平成23年に行った調査では、保護林内でトガサワラ（胸高直径3cm以上）が398本確認され、急傾斜地に集中して分布していることが分かりました。約80年生のため、胸高直径60cmを越えるような大木はほとんど見られず、中径木が密集しています。また、トガサワラのほかに、モミヤツガ、ウラジロガシ、サカキ、ヒサカキなどが混じり、一部植栽されたスギやヒノキ林も見られます。

